

キガタシ、理ト氣ヲ合セテ心トスレバ、ヨクウゴキハタラク也、タトヘバヲモキモノヲ、一人シテモチアゲガタキトコロニ、二人ノ力ヲ合セテアグレバ、必ズカルクナルゴトク、此理ト氣トヲ一ツニ合セテ、心ヨリ氣ヲ用ルトキハ、心ヅヨクナリテ、ヲノヅカラ僻事アルベカラズ、親ニ孝行ヲスルハ心ノ理ナリ、若又親ニイカリヲアラハスハ、是血氣ノ私ナリ、是ニヨツテ理ト氣トノ差別ヲ知ルベキ也、

〔語孟字義〕上情凡三條

情者、性之欲也、以有所動而言、故以性情並稱、樂記曰、感物而動者、性之欲也、是也、先儒以謂情者、性之動、未備、更欲見得欲字之意、分曉、人常言人情、言情欲、或言天下之同情、皆此之意、目之於色、耳之於聲、口之於味、四支之於安逸、是性、目之欲視美色、耳之欲聽好音、口之欲食美味、四支之欲得安逸、是情、父子之親、性也、父必欲其子之善、子必欲其父之壽、考情也、又曰、好善惡惡、天下之同情也、大凡推此之類、見之情字之義、自分曉、

〔聖教要錄〕下意情○中

有惻隱羞惡辭讓是非、是情也、情之發而及物、其目不出二五之間、聖人以仁義禮智、令其情中其節也、〔訓幼字義〕六情、凡九則

情といふは、人心の上に就て、思慮安排にわたらず、生れ付たるまゝにて、いつはりかざることなきところをいふ、世間の人物をうぶといふがごとし、禮記禮運の篇に、何謂七情、喜怒哀樂愛惡欲七者、不學而能と、是にて其義もつとも明らかなり、先儒の説に、心之未發を性と云、已發を情と定めらるゝは、是も張子心統性情の説より出たる事にて、宋朝以來其説一定し、かたく此説を守れども、古人の意にあらず、大抵宋儒以來、事ごとに體用、理氣、未發已發の分を立らるれども、聖人の言には、天道人事の上に、氣をいひて理をとかず、用をいひて體をかたらず、已發の説ありて未發